

## 4. 第24回ヘルペスウイルス研究会報告

近藤 一博

東京慈恵会医科大学・ウイルス学講座

### ヘルペスウイルス研究会とは

ヘルペスウイルス研究会は、ヘルペス研究者の交流を通じて、ヘルペスウイルス研究や関連領域の発展に寄与することを目的に昭和61年(1986)年に設立され、年次学術集会の開催や、海外のヘルペス研究者との国際的な活動・連絡などの事業を行ってきました。会員は基礎医学、臨床医学、獣医学、農学、理学など幅広い分野から構成されています。この会は、もともと若手が自由な研究の交流を行なうことを趣旨としており、安い参加費で、泊り込みの討論を展開することができ、和気あいあいとした中で、研究に関する話ができるという伝統を持っています。発表も、完成されたものだけでなく、まだ始めたばかりの研究に意見を求めることができます。かつては、スライドを1枚だけ出して、「これから、こんな研究を始めますので御意見をお願いします」とだけ言ったという強者もいました。ちなみに、この人は今や立派に医学部の教授を務めておられ、このような会のあり方の良さを物語っていると思います。

本会は、もともと若手の交流会であるため、原則として50才以下の世話人によって構成される世話人会が会の運営にあたり、年に一度1~3名の当番世話人が合宿形式の学術集会を開催します。世話人の定年は、今年から55才に引き上げられましたが、若手の会であるという精神に変わりはありません。

### 第24回ヘルペスウイルス研究会

今年は、ヘルペスウイルス研究会に先立ち、昨年(第56回)日本ウイルス学会の際に、会長の森島恒雄先生の御好意で、「ヘルペスウイルス研究者の集い」を開催させて頂きました。この会には、ヘルペスウイルス研究会の発足時のメンバーである倉田毅先生(富山県衛生研究所、国立感染症研究所)、山西弘一先生(医薬基盤研究所、大阪大学)を始め、多くのヘルペスウイルス研究者が集まり、主にヘルペスウイルス研究の活性化に関する討議が行なわれました。

今年の第24回ヘルペスウイルス研究会は、国立感染症研究所・ウイルス第一部の井上直樹先生と私、近藤が当番世話人を務め、7月2日(木)から4日(土)の3日間(あたり、富士教育研修所(静岡県裾野市)で開催されました。開催に際しては、先の「ヘルペスウイルス研究者の集い」の内容を受け、ヘルペスウイルス研究会の原点回帰である若手研究者中心の会を目指しました。宿泊所を富士教育研

修所にしたのもこのためです。ここは、もともと企業の研修所で、交通が不便で途中で抜け出せず、安価で共同生活ができるため、以前は、よくヘルペスウイルス研究会が開催されました。今回の当番世話人にとっても、懐かしい場所なので、ここをお借りすることにしたのですが、施設は改修され、かなり近代的になっていました。

今年の研究会の内容ですが、特別講演は、山西弘一先生にお願いし、ヘルペスウイルス研究者は、どのような態度で研究に望めば良いかに付いてお話をうかがいました。倉田毅先生にも、懇親会の御挨拶として、研究者の心構えについてのお話と励ましのお言葉を頂きました。山西先生は、私の師匠ですので、私個人にとっては、若いころから何度も聞かせて頂いている耳の痛い話が多かったのですが、私の方も年を取ってきて、ようやくその真意が判りかけて来た様に感じています。お二人のお話は、とても深く、ためになる内容ですので、若い方は是非とも聞くべきだと思います。ここで文章にしてしまうとニュアンスが上手く伝わらないと思いますので、是非とも機会を見つけてお二人のお話を聞いて頂きたいと思います。

今年は、もう一つの目玉として、中堅の研究者によるオーバービューセミナーを開催しました。これは、大学院生などの若い研究者に、中堅のヘルペスウイルス研究者から、ヘルペスウイルス研究の考え方や技術などを紹介し、活性化を図ることを意図しました。また、ある程度の経験の有る者に対しては、非常に多様化しているヘルペスウイルス研究を、整理して考える機会を得ることも目的として行いました。

内容は、以下の様に、臨床から技術開発、生体機能解析を含む、多彩なものとなりました。①「ヘルペス感染症における宿主免疫とその回避機構」藤原成悦先生(成育医療センター研究所母児感染)、②「皮膚科領域におけるヘルペスウイルス感染症」安元慎一郎先生(久留米大皮膚科)、③「眼科領域におけるヘルペスウイルス感染症」井上幸次先生(鳥取大眼科)、④「移植におけるヘルペスウイルス感染症」吉川哲史先生(藤田保健衛生大小児科)、⑤「ヘルペスウイルスにおけるシグナル伝達・細胞周期制御」草野秀一先生(鹿児島大医歯学総合研究科難治ウイルス病態制御研究センター)、⑥「BACとイメージング技術の基礎と応用」川口寧先生(東大医科研 感染症国際研究センター)。

一般演題も、「感染免疫・宿主応答」、「感染動態」、「遺伝子発現制御」、「細胞指向性」、「診断法などの開発」、「ウイ

ルスベクター」,「宿主因子との相互作用」,「ウイルス産物の病態への関与」といった多くのセッションが設けられ,活発な発表と討議が行なわれました。

また,ヘルペスウイルス研究を,生体機能研究につなげる試みとして,「ヘルペスウイルスと疲労」と題するセッションを設け,ヘルペスウイルス研究から判明してきた疲労の分子メカニズムに関する発表と討議も行いました。

### 終わりに

第24回ヘルペスウイルス研究会は,参加人数は,本年度開催のヘルペスウイルス関連の学会が例年よりも多いこともあり,73名とややコンパクトでしたが,今回の最大の目的であった,若手中心の好きなことが言い合える会という目的は,ある程度達せられたのではないかと考えています。

ある程度年をとって研究室を主催する立場になると,様々なしがらみでなかなか好きなことが言えなくなるのですが,今回のヘルペスウイルス研究会では,私も,本当に駆け出しで好きなことが言えた大学院生のころを思い出し

て,好きなだけ思ったことを口にすることが出来ました。ヘルペスウイルス研究会を通じて出来た,自分と同年代の仲間は,かけがいのないものであるという思いを改めて強くしました。

研究そのものに関して,今回の会の非常に広い分野に渡る発表内容から,ヘルペスウイルス研究のさらなる可能性を知ると共に,目的をしっかりと見据えて研究することの重要性を改めて感じ取ることができたと考えています。

他の研究分野におられても,ヘルペスウイルス研究に興味を持っておられる方,臨床を中心にされている方で,ヘルペスウイルスに御興味をお持ちの方など,ヘルペスウイルスに関心を持っておられる方であれば,どなたでも参加は自由です。ヘルペスウイルス研究会への御参加をお待ちしております。

なお,次回,第25回ヘルペスウイルス研究会は,上田啓次先生(大阪大学)と小杉伊三夫先生(浜松医科大学)が当番世話人をお勤めになり,浜松周辺にて開催の予定です。